

# 第 1 平成 2 1 年度予算のポイント

## 《基本的考え方》

安全・安心で豊かな社会づくり、地球環境時代に対応した暮らしづくり、地域の活力と成長力の強化などの課題に的確に対応していくため、重点化・効率化を徹底しながら、真に必要な事業・施策を実施し、社会資本の着実な整備と総合的な交通政策の推進を図る。

## 《予算の規模》

公共事業関係費	5兆7,324億円(1.09倍)
	[5兆0,499億円(0.96倍)※]
┌ 一般公共事業費	5兆6,790億円(1.09倍)
└ 災害復旧等	534億円(1.00倍)

※特殊要因(特別会計に直入されていた地方道路整備臨時交付金相当額が一般会計計上に変更されることによる増加)を除いた額

### 非公共事業

・その他施設費	572億円(0.95倍)
・行政経費	5,677億円(1.02倍)
┌ 裁量的経費	2,069億円(1.02倍)
└ 義務的経費	3,608億円(1.01倍)

---

合 計 6兆3,573億円(1.08倍)

財政投融资 2兆6,749億円(0.73倍)

財投機関債発行予定額 4兆6,278億円(1.09倍)

## 1. 予算の重点化

安全・安心で豊かな社会づくり、地球環境時代に対応した暮らしづくり、地域の活力と成長力の強化の3分野における事業・施策を重点的に推進するとともに、各事業・施策分野においても、その目的・成果に踏み込んできめ細かく重点化し、限られた予算で最大限の効果の発現を図る。

### 安全・安心で 豊かな社会づくり

- 1 災害等から命を守る
- 2 生活者の視点に立った安心施策の展開
- 3 海洋立国の推進

### 地球環境時代に対応した暮らしづくり

- 4 低炭素社会の構築

### 地域の活力と 成長力の強化

- 5 地域の自立・活性化
- 6 魅力ある国際都市づくり
- 7 観光立国の推進

## 2. 成果重視の施策展開

政策評価を予算の効率化等に適切に反映させるとともに、社会資本の戦略的維持管理、公共事業の総合的なコスト構造改善、ハードとソフトの連携、PFI手法の活用により、成果目標の達成に向けて効率的な施策展開を図る。

## 3. 道路特定財源の一般財源化等について

平成20年12月8日の「道路特定財源の一般財源化等について」（政府・与党合意）においては、道路関連支出の無駄の排除、道路特定財源制度の廃止、地域の基盤整備等を盛り込み、平成21年度予算において必要な措置を講ずる。

## 4. 政策の棚卸し・ムダの排除

既存の事業を見直し、廃止・縮小、経費の節減等を図ることにより、平成21年度予算において1,912億円の政策の棚卸しを実施。

公共事業関係費については、予算科目を抜本的に見直し、「事業費」からの支出を個別の工事・事業に直接必要な経費に限定。委託調査費、広報経費、車両経費等について予算の明確化を図り、厳正な予算執行管理を行う。